

会津の文化を支えた要衝

福島県と新潟県の県境に位置し、ふるくから越後街道の宿場町として栄えた会津の西の玄関口・西会津町。人や物が行き交う政治・経済の中心地として、発展を遂げてきました。



会津三大宿場町のひとつ

西会津町は、越後へ続く会津の玄関口であり、多くの人や物が行き交う拠点として栄えてきました。特に「野沢宿」は、江戸時代に整備された越後街道の三大宿場町のひとつに数えられ、当時の会津藩の行政・経済の中心地であったことが伺えます。



▲野沢祭礼



▲野沢駅



▲野沢町役場



▲野沢郵便局



渡部 思齋 (わたなべしさい)



山口千代作 (やまぐちちよたく)



野澤 雞一 (のざわけいち)



小島 忠八 (こじまちゅういち)



渡部 鼎 (わたなべかなえ)



石川 暎作 (いしかわえいさく)

西会津町は別名「学者の西会津」とも呼ばれ、明治以降に全国的な活躍を遂げた偉人を輩出してきました。江戸時代の幕末、会津藩校日新館に学んだ渡部思齋が、自宅がある野沢宿に私塾「研巖堂」を設立。野口英世の手を手術した渡部鼎、アダム・スミスの『富国論』を翻訳した経済学者である石川暎作、エール大学で法律を学んだ野澤雞一、自由民権活動家の山口千代作、小島忠八などの偉人が、この塾から次々に誕生しています。

時代を牽引した偉人たち

会津張り子「赤べこ」

江戸時代から明治にかけて、全国各地でつくられた郷土玩具。会津を代表する郷土玩具「赤べこ」は、ふるくから厄除けのお守りや縁起物として、会津の人々に愛されてきました。そんな赤べこづくりのシェアをおよそ7割も占める工房「野沢民芸品製作企業組合」が、西会津町にあります。50年以上にわたり、会津張り子を中心に郷土玩具や民芸品をつくり続けている野沢民芸。手がけた作品は、道の駅「よりっせ」をはじめ、お土産ショップで購入できます。



西会津の伝統産業・出ヶ原和紙

旧会津藩の御用紙として使われていた歴史がある西会津町下谷地区出ヶ原（いづがはら）産の「出ヶ原和紙」。出ヶ原は水源が豊富で、かつては会津地方の中でも有名な和紙の生産地でした。昭和中期頃、後継者不足や大水害などの影響により産業が衰退してしまったものの、現在は和紙職人や地域の人たちによって出ヶ原和紙の再生を試みる活動が盛んに行われています。工房見学や紙漉き体験なども随時開催しています。